

学校名 三島村立三島竹島学園・竹島子ども会

項 目	活動内容等
1 推薦機関が受賞候補校等を推薦する理由	<p>極小規模校であるが、学校の児童生徒会主催で年2回、子ども会で年8回のリサイクル活動（アルミ缶収集）を長年にわたって行っており、児童生徒のリサイクルに関する意識を高めている。また、保護者も協力し、活動を行っている点も評価できる。</p>
2 受賞候補校等の活動状況等 (1) リサイクル活動の動機・頻度 ① リサイクル活動を始めた動機及び開始年月	<p>児童生徒会では、年2回（夏休み前、2学期）に活動している。また、子ども会では、（年8回）計画し、活動している。</p> <p>リサイクルに対する意識を高めること、また、アルミ缶収益を子ども会の活動費に充てることなどを目的として始まった。スタート時期は不明だが、平成24年度には子ども会の空き缶回収の記述がある。</p>
② 活動の愛称名があれば記入して下さい	なし
③ 月間又は年間活動回数	<p>児童生徒会生徒会（年2回） 子ども会（年8回程度）</p>

項 目	活動内容等			
④ 活動のエリア	竹島地区（校区内）			
⑤ 活動1回当たりの平均参加者数	23人			
⑥ 活動1回当たりの平均時間	1時間			
⑦ 取り扱った回収実績数量				
	品 目	2020年度	2021年度	2022年度
	アルミ缶	0.09t : m ³	0.09t : m ³	0.09t : m ³
⑧ 回収した資源物の処理方法	業者に買い取りを依頼			
(2) 活動の独創性 活動の特徴	回収前日に、子どもたちが地区内放送をかけ、各家庭に呼びかけを行っている。また、回収がないときも、アルミ缶をリサイクル倉庫に集めてもらっている。			

項 目	活動内容等
(3) 地域への貢献度 ① 地域の環境美化への貢献	<p>子どもたちがアルミ缶の収集活動を行うことで、地域のポイ捨ての防止につながっている。</p>
② 地域住民との協力活動	<p>地区内放送などでアルミ缶収集を行っていることを周知し、他のゴミと分別収集していただいている。</p>
③ 児童・生徒の活動に対する地域住民の反応	<p>子供たち自ら放送を行っているため、アルミ缶を洗って出すなどとても協力的である。放送を行うことで、年々洗って回収に出すアルミ缶が増え、リサイクルを行う意識が高まってきたことがわかる。</p>
(4) 環境教育との関連 ① 環境教育と活動との結びつき	<p>循環型社会の実現など、各教科の学習と結び付け、持続可能な社会を目指す態度を培うことにつながっている。</p>
② 活動開始後の児童・生徒の美化意識の変化	<p>廃棄するとごみになるものが資源として再利用され、生まれ変わることを知り、身の回りにあるものをごみではなく資源として活用できる意識が高まってきた。</p>
③ 当該活動以外の環境教育実践活動	<p>クリーン作戦と称し、年1・2回、港の清掃にも取り組んでいる。高波のとき、漂着しているものなどがあり、人が出したゴミが自然環境に与える影響を考えるよい機会となっている。</p>

項 目	活動内容等
(5) 当該活動で他の表彰を受けたことがありますか (受賞年月日と表彰機関名)	なし
(6) 校内外活動のための時間の作り方	<p>児童生徒会活動の空き缶回収は生徒会の時間で確保している。</p> <p>子ども会活動であるため、週休日等を活用した時間設定をしている。負担が大きくなるように、活動自体は1時間程度で終わるようにしている。</p>
3 その他特記事項	なし

空き缶回収活動状況

- 空き缶回収を行う前日の夜19:00に島内放送を流し、翌朝空き缶回収を行うことを伝える。
- 各家庭の玄関先に置いてあるアルミ缶を3つの班に分かれて回収する。回収の班編制は、前期課程生と後期課程生を縦割りにしたものである。
- 各家庭をまわる中で、両手いっぱいの空き缶が集まる。
- 本活動を継続することによって、水洗いして空き缶を提供していただける家庭が多くなってきた。地域住民の分別回収の意識も高まっていることがわかる。
- スチール缶が混ざっていないか、すべての空き缶が水洗いされているか全員で最終確認する。
- 全体でまとめを行い、リサイクル小屋へ収納する。年1回の回収時に船で鹿児島市の業者に送り、収入は子ども会の活動資金になり、親子レクやクリスマス会のお菓子の購入など子ども会会員全員に還元している。

